

子どものイヤイヤにどう付き合う??

1歳半ごろになると、自我が芽生え、急に自己主張が強くなってきて「イヤ!」「ダメ」が多くなったり、自分の思い通りにならないと寝転がって大泣きしたり、反抗的な態度に悩まされることもあると思います。

大人にとっては“困った”と思える行動ですが、実はしっかりとした心の成長の証で、拒否することで、大人とは違う“自分”を主張している姿なのです。大人の言いなりではなく「自分はこうしたい!」「自分で決めたい!」と自分を意識し、自己主張し、自分にこだわる心の働きを“自我”といいます。

この時期こそ、他者の要求とぶつかりあい、自分の要求がいつも通るわけではないことを学ぶいいチャンスです!!

こんな時には、自我が芽生えた子どもに「ダメです!」「～したらいけません」と大人の一方向的な圧力を押しつかけたり、しつけようとするせつぱく芽生えた自我の芽を摘み取ってしまいます。まず、“いや”“～したい”と思っている子どもの気持ちを大人が言葉にして確認し、少し子どもの気持ちが落ち着いてきたところで、大人の考えも伝えたり、“〇〇と△△とどっちがいい?”などと選択肢を与え、子どもに決めさせる事で、子どもは自分の思いが分かってもらえている!!と大人へ信頼を寄せていきます。そんな経験を積み重ねていくことで、折り合いをつける事も出来るようになっていきます。

時には互いに感情をぶつけ合いながら、あまり神経質になりすぎないように接していったあげれるといいですね。

